

クリーン豚

フランスでは、われらブタ族のことを「コシヨン」と呼ぶ。フランス語としては珍しくケルト語（インド・ヨーロッパ語系）から由来したもので、意味は、「泥だらけ」というのだそうである。

また、われわれブタを絶対に口にしない回教徒やユダヤ教の信者たちの間では、彼らがあがめる偉大な教祖が、われらブタ族を引き合いにして、「いったん罪を犯したものは、その泥の中からなかなか脱け出せない」ことの例えにしているとか。

いずれも、我らブタ族を「不潔な野郎」と決めつけていらっしやるようなのである。もつとも、フランス語の「コシヨン」は、その意味が「泥だらけ」であるにしても、この国でわれわれに与えられた「ブタ」という呼び名に比べれば、まだしも心地よい響きをもっている。さすがは言葉を大切にする国！と、半分だけ感心しておこう。

われわれブタ族が、かつて「泥だらけ」の生活をしてきたのは、これまで人

間さまが、そんな、泥だらけになるような汚い棲(す)み家しか、われわれブタ族に与えてくれなかったからである。事実、ブタ小屋といえは、田植まえの田んぼのような、ぬかるみさながらの劣悪なものばかりであった。

が、われわれの仲間は、そんな悪環境でも力強く、元気に丸々と成育した。というのもわれわれは、そんな最低の環境の中でも、餌を食べるところ、寝る場所、排せつをするところをちゃんと区別して棲み分けているからで、この衛生観念の強さと潔癖さが、われわれブタ族を、これまでどんな悪い環境のなかでも力強く生き続けさせてきたことの秘密なのである。

と、ここで、そういうわれわれブタ族の実態を分かっていたいただきたいものだと思うわけなのだがそれでも、まだ疑う人があれば、われらの生活ぶりをじっくりと実際に観察して見られるがよい。

そういっても、今日のような大規模養豚時代では、そんな汚い。「ブタ小屋」を探すこと自体、ちよつと無理カモね……。

